



平安だより

世田谷平安教会付属 平安幼稚園

2019年 6月号

「新しい旅は始まる」

牧師・園長 長村亮介

「僕はきつと旅に出る」

笑えない日々のはじつこで 普通の世界が怖くて
君と旅した思い出が 曲がった魂整えてく
今日も ありがとう

僕はきつと旅に出る今はまだ難しいけど
未知の歌や匂いや 不思議な景色にしに
星の無い空見上げて あふれそうな星を描く
愚かだろうか？ 想像じゃなくなるそんな時まで
指の汚れが落ちなくて 長いこと水で洗ったり
朝の陽ざしを避けながら 裏道選んで歩いたり
でもね わかつてる

またいつか旅に出る 懲りずにまだ憧れてる
地図にも無い島へ 何を持っていこうかと
心地よい風を受けて 青い翼広げながら
約束した君を 少しでもだけ待ちたい

きらめいた街の 境目にある 廃墟の中から外を眺めてた
神さまじゃなく たまたまじゃなく はばたくことを許されたら
僕はきつと旅に出る今はまだ難しいけど
初夏の虫のように 刹那の命はずませ
小さな雲のすき間に ひとつだけ星が光る
たぶんそれは叶うよ 願ひ続けてれば
愚かだろうか？ 想像じゃなくなるそんな時まで

(作詞・作曲 草野正宗)

作詞、作曲の草野正宗さんは、NHKの連続テレビ小説『なつぞら』の主題歌「やさしいあの子」を歌っているロックバンド「スピッツ」です。少し以前になります。が、一九九六年にフジテレビで放映された『白線流し』の主題歌として起用された「空も飛べるはず」でご存知の方も多いでしょう。

ご紹介した「僕はきつと旅に出る」は、草野さんが、東日本大震災後の二〇一三年に、前作からしばらくの時を経て発表されたものです。というのは、草野さんは東日本大震災に大きなショックを受けられてしまい、体調を崩されて、しばらく活動を休止。この楽曲はご自身のそこからの回復がテーマになっているように思います。心が折れている時は、自ら生きようと思う生き生きとした気持ちはなかなか湧きあがって来ないようです。この歌が「君」と呼んでいるのは希望でしょうか、それともドリームでしょうか。「曲がった魂」を整えてくれるのは、確かに生きたいと思う心からの願いだと思えます。ただそれは本当に小さくて、「小さな雲のすき間に ひとつだけ星が光る」ようなものです。そしてそれは「朝の陽ざしを避けながら 裏道選んで歩いたり」、「きらめいた街の 境目にある 廃墟の中から外を眺めて」いるところから見るのはとても難しい。ただ「でもね わかつてる」とあるのは、このような気持ちにある人は、みんなうつすらと、だんだん気が付き始めるからです。ただ「今はまだ難しいだけ」です。しかし私たちが未来へとほばたく青い翼を広げるなら、希望という心地よい風はたとえささやかでも、必ず吹いて来るものだと思います。そして私は、その風、希望は神さまの愛だと信じています。旧約の「イザヤ書四〇章三一節」には、次のように記されています。

「主に望みをおく人は新たな力を得
驚のように翼を張って上る。」

走っても弱ることなく、歩いても疲れない。」

神さまの風に気づく時、きつと新しい旅は始まる。Ω

平安だより

世田谷平安教会付属 平安幼稚園
2019年 6月号